

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙
行
札幌キャンパスで第21回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
「第2回 国際雑談～Be the Global Chatter～」を開催





春のガレージセールを開催



函館キャンパスにてインターンシップ&就職活動スタートアップガイダンスを開催

全学ニュース

- 1 北海道大学ディステイニングイシュートプロフェッサー称号授与式を挙行
- 2 北海道大学ディステイニングイシュートリサーチャー称号授与式を挙行
- 3 春のガレージセールを開催
- 4 「UNIVAS CUP 2023-24」北海道地区総合ランキング1位を獲得
- 5 函館キャンパスにてインターンシップ&就職活動スタートアップガイダンスを開催
- 6 全学インターンシップ履修説明会を開催～学部1・2年生向けに加え新設のM1エンカレコースを新設～
- 7 キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～総合商社編～」を開催～住友商事から知る商社の仕事
- 8 札幌キャンパスで第21回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
- 9 寶金清博総長が日韓学長会議（2024 Korea Japan University Presidents' Forum）に出席
- 10 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 12 「第2回 国際雑談～Be the Global Chatter～」を開催
- 13 北海道岩見沢緑陵高等学校にて「地元企業&創業の魅力発見」事業を実施
- 14 豪ラトローブ大学教員との高校生向け授業に係る意見交換を実施
- 15 メルボルン大学との技術職員連携強化
- 16 学生向けシンポジウム「北海道のGXと経済をつなぐ未来とは」を開催
- 17 ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「グッドドライバー・チェック」を実施
- 18 「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！vol.4」に参加
- 19 一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）社員総会・講演会にて、横田理事・副学長が登壇、「SDGsの達成に向けて必要となる大学運営の在り方」について講演

部局ニュース

- 20 文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
- 21 広域複合災害研究センター第二期オープニングセレモニーを挙行
- 22 「北大美術部黒百合会 新歓展」を開催

表敬訪問 23

訃報

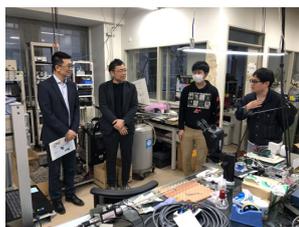
- 24 名誉教授 多賀 光彦 氏

資料

- 25 在籍学生数（令和6年5月1日現在）
- 27 令和6年度外国人留学生数（令和6年5月1日現在）
- 28 令和6年度国別外国人留学生数（令和6年5月1日現在）



寶金総長が日韓学長会議に出席



メルボルン大学との技術職員連携強化



学生向けシンポジウム「北海道のGXと経済をつなぐ未来とは」を開催



「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！vol.4」に参加

表紙：北海道大学ディステイニングイシュートプロフェッサー称号授与式を挙行（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景⑤ 南側テニスコート（北11条西6丁目）

■全学ニュース

北海道大学ディステイングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙

5月16日（木）、北海道大学ディステイングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、今年4月に新たに称号を付与された触媒科学研究所の清水研一教授に対し、寶金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディステイングイッシュ

トプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、平成26年度に創設したものです。人格が高潔で、世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、本学の名誉を著しく高めることが

期待できる本学の教員等へ称号を付与します。

なお、今年度に称号が付与された者（更新となった者を含む）は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所 属	職名	氏 名	称号付与期間
触媒科学研究所	教授	清水 研一	令和6年4月1日～令和9年3月31日
化学反応創成研究拠点 及び先端生命科学研究院	教授	龔 劍萍	令和6年4月1日～令和9年3月31日
環境健康科学研究教育センター	招へい教員	岸 玲子	令和6年4月1日～令和7年3月31日
先端生命科学研究院	招へい教員	コスタンティノ クレトン	令和6年4月1日～令和7年3月31日
先端生命科学研究院	招へい教員	マイケル ルビンスタイン	令和6年4月1日～令和7年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	ロレーナ エリザベス ブラウン	令和6年4月1日～令和7年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	ウィリアム ウォームスリー ホール	令和6年4月1日～令和7年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	エリザベス ルイズ ハートランド	令和6年4月1日～令和7年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	デイビッド チャールズ ジャクソン	令和6年4月1日～令和7年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	アーナブ ペイン	令和6年4月1日～令和7年3月31日



授与式の様子



左から瀬戸口剛理事・副学長、寶金総長、清水教授、山口淳二理事・副学長

北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙

5月16日（木）、北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、新たに称号を付与された者3名（常松友美講師、李 响准教授、渡邊友浩准教授）に対し、寶金清博総長から称号

楯が授与されました。北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー制度は、本学の教育研究の一層の推進及び優秀な若手教員の確保に資することを目的として、令和4年1月に創設したものです。専門分野

において高い研究業績を有する本学の若手教員等に対し、称号を付与します。

なお、今年度に称号を付与された者は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所 属	職 名	氏 名	称号付与期間
理学研究院	講師	常松 友美	令和6年4月1日～令和9年3月31日
先端生命科学研究院	准教授	李 响	令和6年4月1日～令和8年8月31日
低温科学研究所	准教授	渡邊 友浩	令和6年4月1日～令和9年3月31日



授与式の様子



左から瀬戸口剛理事・副学長、寶金総長、渡邊准教授、李准教授、常松講師、山口淳二理事・副学長

春のガレージセールを開催

5月14日（火）、学生交流ステーションロビーにおいて、春のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の妻と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に対して日常生活に必要

な物資を提供しているものです。

当日は天気も良く、来場者は開場とともに小型家電製品、食器や調理器具などの日用品、衣料や寝具などのコーナーに詰めかけていました。来場者数は約220名でした。多くの留学生が手に大きな荷物を抱え、活気ある賑わい

を見せていました。

毎年4月と10月の開催前には学内に向けて物品提供依頼をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

（学務部学生支援課）



オープン前から行列する留学生



日本人形を選ぶ留学生



布団を選ぶ留学生



購入品を運ぶ留学生

「UNIVAS CUP 2023-24」北海道地区総合ランキング1位を獲得

令和6年5月22日（水）、「UNIVAS CUP 2023-24」で北海道地区総合ランキング1位を獲得したことを記念し、一般社団法人大学スポーツ協会（以下「UNIVAS」）の池田敦司専務理事から、高橋 彩理事・副学長と遠山晴一スポーツトレーニングセンター長に対し、賞状、トロフィー及びランキング1位を記念するパネルが手渡されました。

UNIVASは平成31年に創設され、以後、大学スポーツの振興と参画人口拡大に向けて活動しており、運動部学生のデュアルキャリア形成支援事業をはじめ、大学スポーツの安全安心な環境確立事業、ブランド価値向上及びDX

推進等、数多くの事業を展開しています。

また、令和3年から、寶金清博総長はUNIVASの理事にも名を連ねています。

UNIVASでは大学スポーツの振興を目的として、平成31年から競技横断型大学対抗戦「UNIVAS CUP」を開催し、加盟217大学で総合ランキングを競っています。

北海道地区からも多くの大学が加盟する中、本学は平成31年のUNIVAS CUP開催以降、5年連続で北海道地区総合ランキング1位を獲得しています。

池田専務理事からの総合ランキング

1位獲得に関する説明を受け、高橋理事・副学長から、本学は札幌の中心にありながら教育にもスポーツにも適した環境にあり、正課外の活動を大学としても応援しているので、このランキングが学生の励みになることを期待しているとお話がありました。

「UNIVAS CUP 2023-24」の賞状とトロフィーは体育館エントランスに飾られていますので、お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

（学務部学生支援課）



池田専務理事から高橋理事・副学長がトロフィーを受け取る様子



賞状、トロフィー、ランキング1位パネルと池田専務理事、高橋理事・副学長、遠山スポーツトレーニングセンター長

函館キャンパスにてインターンシップ&就職活動スタートアップガイダンスを開催

5月10日（金）、キャリアセンターと水産学部・水産科学院の共催で「インターンシップ&就職活動スタートアップガイダンス@函館キャンパス」を開催しました。

函館キャンパスでは水産学部・水産科学院の学生に向けて、年間を通じて就職ガイダンスを実施しています。今回はコロナ禍以降初めて、キャリアセンターが初回のガイダンスを担当し、当日は102名の学生が参加しました。

本ガイダンスでは、まずキャリアセンターの川上あき特任講師・副センター長が挨拶し、その後、キャリアセンターから就職活動の現状についての説明、先端人材育成センターの村上理恵子特任助教から博士課程学生の就職活動について説明がありました。

続いて、現役人事担当者であり本学卒業生のホクレン農業協同組合連合会

の里城 緑氏と北海道漁業協同組合連合会の野口詩穂子氏にご登壇いただき、キャリアセンターの吉田梨恵インターンシップマネージャー進行のもと、パネルディスカッション方式で、エントリーシートと面接についての講演を行いました。過去に水産学部・水産科学院の学生が作成した自己PRと志望動機を用いて、良い部分と改善部分を具体的に説明・公開添削をいただき、普段学生が聞くことのできない人事視点での捉え方を解説しました。水産学部卒業の野口氏からは実際の函館キャンパスからの就職活動についてのアドバイスなどの話もありました。

参加した学生からは、「就職活動は未知で怖いイメージがあったが、これからどう動くべきか具体的なイメージをつかむことができた」「ESで企業が何を求めているのか、実際の人事の方と

自分で考えていたことのギャップを知ることができて良かった」などの意見があり、就職活動に対する不安解消や人事視点と学生視点の差を知ることができた、などの満足の声がありました。

また、初めて対面開催の講座に参加した学生は「対面で企業人事担当の話聞く機会がもっと欲しい」と、オンラインでは感じられない対面開催ならではの話者の熱量を感じていました。

キャリアセンターでは、今後、函館キャンパスにて相談員との対面キャリア相談を実施するなど、普段キャリアセンターに来ることが難しい函館キャンパスに通う学生の支援を行っていきます。

<https://cc.academic.hokudai.ac.jp/>

（キャリアセンター、水産科学院・水産学部）

日時：2024年5月10日（金）18：30～20：00

会場：函館キャンパス 大講義室

パネリスト：ホクレン農業協同組合連合会 管理本部 人事部 人材開発課 主幹 里城 緑 氏

北海道漁業協同組合連合会 総務企画部 主事補 野口詩穂子 氏

主催・企画・当日進行：キャリアセンター



会場の様子



右から、ホクレン農業協同組合連合会 里城氏、北海道漁業協同組合連合会 野口氏

全学インターンシップ履修説明会を開催 ～学部1・2年生向けに加え新設のM1エンカレコースを新設～

5月14日（火）、高等教育推進機構高等教育研究部とキャリアセンターの主催で、「全学インターンシップ履修説明会」をオンラインで開催しました。

全学インターンシップは、インターンシップ先の企業・団体等の開拓や調整、学生の選考、インターンシップ参加前や参加後の学生への研修に大学が関与する、正課の全学教育科目・大学院共通科目としてのインターンシップ制度です。夏季休業中に原則5日間程度以上のインターンシップを推進しており、就業体験における教育効果を高めています。

履修説明会では、インターンシップ

担当教員である高等教育推進機構の亀野 淳教授からの挨拶の後、川上あき特任講師が、全学インターンシップ制度における手続きや支援の内容、各コースについて説明しました。また、経済同友会と連携し、充実した内容の就業体験が人気となっている学部1・2年生専用の特別プログラムについても説明を行い、1年生・2年生からも多くの質問が寄せられました。なお、経済同友会と連携した特別インターンシップは、今年度から修士1年生限定のM1エンカレコースが設けられたこともあり、より充実した内容となっています。

今後、6月から派遣先企業とのマッ

チングを開始し、教員による選考や7月の事前研修、学生との個人面談を経て、夏季休業期間中の8月～9月にインターンシップが実施される予定です。本学においても総務企画部人事課が窓口となり、本学学生のインターンシップ受入れを予定しています。

インターンシップ参加前後の教育効果を高める各種研修も随時実施していきますので、詳細はキャリアセンターウェブサイトでご確認ください。

(キャリアセンター)

日時：2024年5月14日（火）18：15～19：45

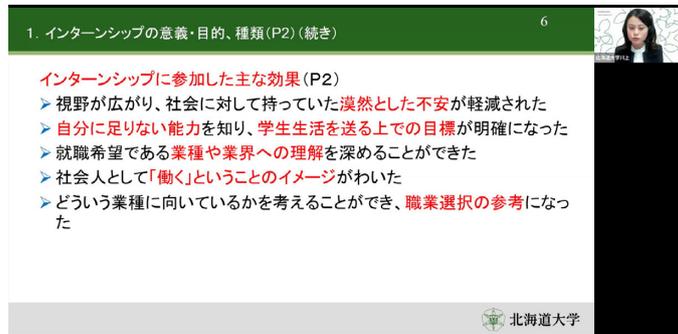
会場：オンライン配信及びオンデマンド配信 ※オンデマンド配信について、学生はELMSで視聴可能

主催：高等教育推進機構高等教育研究部/キャリアセンター

担当教員：高等教育推進機構 亀野 淳教授、川上あき特任講師

当日進行：キャリアセンター インターンシップマネージャー 吉田梨恵

詳細：キャリアセンターウェブサイト <https://cc.academic.hokudai.ac.jp/>



全学インターンシップ履修説明会の様子

キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～総合商社編～」を開催～住友商事から知る商社の仕事

5月17日（金）、クラーク会館にて、キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～総合商社編～」を開催しました。

当日は短い時間で学生に総合商社の仕事と働くことへの理解を深めてもらえるよう、4部構成で実施しました。第1部では株式会社マイナビの小島大樹氏から業界を理解するコツやポイントの解説、続く第2部では住友商事株式会社国内業務企画部人事チーム長の重富正裕氏から総合商社の業務や仕事、住友商事の特徴などについて解説をいただきました。

第3部のパネルディスカッションで

は、重富氏ともう1名、住友商事北海道に出向し、電力・産業インフラ部で営業を担当している小野貴史氏にも登壇いただき、ご自身の就職活動や総合商社での仕事について、様々な質問にご回答いただきました。

第4部は重富氏と小野氏それぞれと学生がじっくり話することができる座談会を実施し、学生からは、実際の仕事や活躍する人材について、また海外赴任について、時間が足りなくなるほど次々と質問があり、大変な盛り上がりの中、2時間のガイダンスは終了しました。

学生からは、「対面で近い距離で話

をきくことができよかった」「どのような仕事をしているのかわかりにくい業界だと思っていたが、イメージすることができた」など、対面開催で複数名の話の聞いたことで理解が深まったとの感想が多くありました。また「他の業界についても実施してほしい」との意見が多くありました。

キャリアセンターでは年間を通じて様々なガイダンスを実施していますので、ぜひ学生の皆様にご案内ください。

（キャリアセンター）

タイトル：インターンシッププレ研修 業界研究ガイダンス～総合商社編～

日時：2024年5月17日（金）18：15～20：15

会場：クラーク会館

登壇者：住友商事株式会社 国内業務企画部人事チーム長 重富正裕氏

住友商事北海道株式会社 電力・産業インフラ部 小野貴史氏（住友商事株式会社からの出向）

企画・主催・当日運営：キャリアセンター

運営協力：株式会社マイナビ



学生でほぼ満員となった会場



会場に語りかける重富氏



座談会は会場を2つにわけて実施



座談会で学生の質問に答える小野氏

札幌キャンパスで第21回「キャンパス・クリーン・デー」を実施

全学一斉の構内清掃作業として、札幌キャンパスでは5月15日（水）に「キャンパス・クリーン・デー」を実施しました。キャンパス・クリーン・デーは、春の恒例行事として位置づけられており、今回で21回目を迎えました。

当日、事務局参加者は百年記念会館前に集合し寶金清博総長からの挨拶の後、清掃作業を開始しました。学生・教職員等、約3,500名が参加し、それぞれ持ち場で清掃作業を実施しました。今後も快適で安全なキャンパス環境を維持するうえで、一人でも多くの方

にキャンパス美化活動にご参加いただくとともに、普段から一人一人が本学の構成員として、美景の継続について、ご協力いただきますようお願いいたします。

(施設部環境配慮促進課)



挨拶をする寶金総長



実施状況（事務局）



実施状況（歯学部）



実施状況（理学部）

寶金清博総長が日韓学長会議 (2024 Korea Japan University Presidents' Forum) に出席

5月9日（木）に、韓国・ソウルにて、韓国大学教育協議会（KCUE）主催、国公立大学団体国際交流担当委員長協議会（JACUIE）共催で「2024 Korea Japan University Presidents' Forum（日韓学長会議）」が開催され、寶金清博総長が出席しました。

Juho Lee（ジュホ・リー）韓国教育部副総理やChang Beom Kim（チャンボム・キム）韓国経済人協会副会長ら韓国の政界及び財界の要人並びに在韓国日本国大使館の實生泰介次席公使が来賓として出席する中、日本から20大学、民間企業3社、韓国から26大学、民間企業3社が参加しました。

本会議は、「第4次産業革命期における高度人材の育成」をテーマにした日韓両国の大学代表による基調講演及び3つのテーマ別セッション（セッショ

ン1「国家のソフトパワーとしての大学の役割」、セッション2「共同研究及び人材育成を主眼とした産学連携」、セッション3「二国間の高等教育における学生交流促進のための提言」から構成され、基調講演では寶金総長が登壇し、「Novel Japan University Model：大学院教育の改革」についての発表を行いました。

日本と韓国は隣国同士であり、少子化、人口減少という国内における共通の社会的課題を抱えています。そして、世界的には、第4次産業革命期を迎え、科学技術の発展とイノベーションが日進月歩で競争が激化する中、社会経済的に大きな構造転換が生じています。高等教育においても、このような変化に対応していく必要に迫られており、既存の専攻分野の壁も崩れつつ

ある状況にあります。本会議では、このような激変の時代に、緊密な日韓の大学関係の構築や若年層世代の交流拡大などの新しい時代に向けて日韓の大学が協力していく取組を進展させていくことが重要であるとし、産学連携を通じた人材育成を行い、大学から社会へ、社会から大学へと資金や人材の好循環を促していくことが必要であることや、日韓の高等教育交流における学生交流の促進の方策について闊達な議論が行われました。

今般の日韓学長会議は初めての開催であり、本会議開催が、日韓の大学の更なる連携強化の契機になることが期待されています。

（国際部国際連携課）



基調講演を行う寶金総長



会場入口のサイン



両国学長ほか代表者の集合写真

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をする事としています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(4月30日現在)	47,570件	7,121,437,693円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(4月30日現在)	10,522件	956,669,136円

ご寄附状況

4月は240件15,927,120円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。
(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アウトソーシングテクノロジー、旭川赤十字病院、医療法人おくがわ小児クリニック、SSKファシリティーズ株式会社、クラウドファーム株式会社、サムワン、JFEホールディングス株式会社、医療法人財団健貢会 総合東京病院、東邦交通株式会社、医療法人社団 ふかや皮膚科クリニック、福住産科婦人科クリニック、社会医療法人北海道恵愛会札幌南三条病院

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	赤平 幸郎	鑑 邦芳	阿部 雅史	有馬 孝彦	石井 哲夫
石井 信行	石垣 隆弘	石橋 啓	石山 和行	市坂 有基	市原ゆみ子	伊藤 大貴	伊藤 雄三
井上 将希	猪股 哲美	猪股 路子	井原 博	今井 晋	入澤 秀次	植坂 優	上田 諭
上田 雅敏	上原 信二	梅本 由佳	遠藤 公憲	大久保哲之	大沼 豊	大原 正範	岡崎太一郎
沖崎 遼	奥山 幸樹	小田原一史	小原 大和	親松 茂	片山 奨	加藤 伸康	加藤 裕貴
金川 眞行	上館 民夫	亀倉 更人	河村 政浩	河本 充司	菅野 正義	北林 俊憲	木村 祐介
工藤 昌行	熊谷 明史	栗原 誠治	小坏 美帆	上月 浩	小住 英之	小林 賢人	近藤 伸一
齊藤 慈円	齊藤 晋	齋藤 久	齋藤 久泰	坂本 大介	崎元 大志	佐藤 裕二	三升畑元基
重田 親司	志濟 聡子	柴田 祐次	柴野 純一	新宮 康栄	菅原 新也	杉江 和男	杉本 聡
鈴木 貴之	須田 浩太	瀬名波栄潤	高瀬登志彦	高橋順一郎	高柳 涼	田栗 和奈	館田 双葉
田中 敏	長南 敏幸	土崎 南	土家 琢磨	寺坂 紀雄	寺澤 睦	寺田 努	董 建剛
時岡 真治	徳田 禎久	戸田 智弘	土肥 朋世	富岡 義雄	豊田 威信	中間 徹	新谷 好正
庭野 陽樹	根本 叔治	野原 拓馬	花田 秀一	原田 一道	久田 敦史	平田 健司	福永 悟郎
藤澤 裕子	藤本比沙雄	富士本政幸	藤森 俊介	古川夕里香	堀内 成好	眞井 翔子	増山 邦彦
松井 耕二	松原 謙一	三木 證永	水上 卓哉	南田 大朗	宮坂 衛	宮田 信幸	村上 泰一
村瀬徳啓充	村瀬 亮太	桃山 光樹	八重樫幸一	柳澤 大貴	矢羽々洋之	山田 浩太	山本 睦生
横井 敏郎	横田 浩	横山 考	吉田 広志	若狭 哲	鷲野 弘明	和田 剛志	和田 秀之

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年8～9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）

<感謝状の贈呈>



北海道厚生農業協同組合連合会様（令和6年4月10日）



大和証券株式会社様（令和6年4月10日）



一般社団法人 北海道CGCみどりところの基金様（令和6年4月11日）



横山 清 様（令和6年4月11日）



中川 翼 様（令和6年4月16日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

「第2回 国際雑談～Be the Global Chatter～」を開催

産学・地域協働推進機構は4月27日（土）に、学生団体ARNと本学学生がCEOを務めるBeeber Globalと協働し、「第2回 国際雑談～Be the Global Chatter～」を開催しました。

本イベントは、高校生と本学の留学生が英語を用いて交流することによる、異文化理解や英語コミュニケーション能力向上の醸成を目的としています。企画・運営を担当した学生団体ARNは、令和5年度に本学が実施したアントレプレナーシップ教育プログラム「アントレまちなか留学」に参加した高校生で構成され、本イベントは彼らがプログラム内で考案したアイデアを実現したものです。3月27日（水）に第1回のイベントを開催し、定員を

超える参加申込があるなど大変好評だったため、第2回開催と位置づける本イベントの実施が実現しました。

イベント内容は、参加者が自然と英語を使えるアイスブレイクを取り入れたり、会話のきっかけとして活用できる話題カードを用意したりするなど、国際交流のハードルを下げることで、気軽に参加ができるよう、高校生ならではの目線による工夫が盛り込まれていました。前回開催と同様に、募集人数を超える多くの方から参加申込があり、開催当日は札幌市内の高校生と本学の留学生を中心に47名が参加し、英語を使ったコミュニケーションで交流を深めました。

参加した高校生からは「日本とは違

うオープンマインドな文化に触れることができ、海外留学に行ってみたいと感じた」、留学生からは「日本の高校生に自国の文化を伝えられる機会となった。みんなが興味を持ってくれて嬉しかった」などの声が寄せられ、大変好評でした。第3回は中学生まで募集対象を拡大し、北大祭で実施しました。

産学・地域協働推進機構では、今後も北海道におけるアントレプレナーシップの涵養に資するべく、このような取り組みを継続的に実施してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

イベント実施内容

日 時：4月27日（土）17：00～19：00
 内 容：高校生と外国人留学生の交流会
 参加者数：47名（高校生32名、留学生15名）
 会 場：北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウ



説明の様子



アイスブレイクの様子



国際交流の様子



集合写真

北海道岩見沢緑陵高等学校にて「地元企業&創業の魅力発見」事業を実施

産学・地域協働推進機構は、5月8日（水）に岩見沢市「地元企業&創業の魅力発見」事業の一環として、北海道岩見沢緑陵高等学校における総合的な探究学習のカリキュラム内で、地域課題の解決と起業・創業に関する授業を実施しました。

授業は、事前に岩見沢市役所職員の方々と共に考えた地域課題を、どのようにしてビジネスで解決するかを、生徒たちがチームで考える内容で、本機構で開発したカードゲーム型教材を用いて行いました。また、ゲーム内のファシリテーターとして、北海道教育大

学岩見沢校芸術・スポーツビジネス専攻の学生が参加しました。

「市内のレジャー施設をもっと活性化しよう」「岩見沢市の強みをもっと活かそう」という岩見沢市独自の課題や、「女性が活躍する地域にしよう」「子どもであふれる地域にしよう」など、他の地域にも通じる課題が用いられ、生徒は共感できる、解決したいと思う課題を選択し、様々な物事を掛け合わせて、課題を解決するビジネスのアイデアを出し合いました。ワークショップの後、各チームが提案したビジネスのアイデアをお互いに評価して

投資し合い、最も多くの資金を集めたチームには優秀賞が贈られました。

授業を終えて、生徒からは「普段、生活している街について改めて考えることができた」「今日、学んだ内容を今後の探究学習に活かしていきたい」などの感想が寄せられました。

今後も産学・地域協働推進機構では、地域や他機関と協働しながらアントレプレナーシップの涵養に向けて、様々な教育を提供してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

イベント実施内容

日 時：5月8日（水）13：25～15：15

対 象：北海道岩見沢緑陵高等学校普通科2年生 120名
北海道教育大学岩見沢校 6名（ファシリテーター）

会 場：北海道岩見沢緑陵高等学校体育館

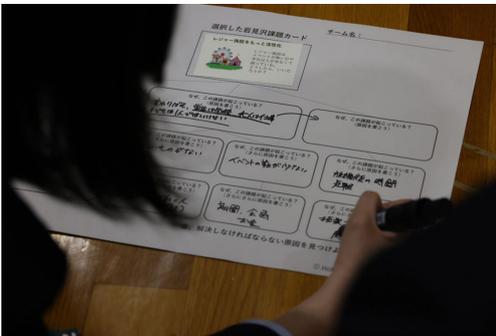
協力機関：北海道岩見沢緑陵高等学校、北海道教育大学岩見沢校、空知信用金庫、株式会社日本政策金融公庫



授業の様子1



授業の様子2



ワークシート



優秀賞を獲得したチームメンバー

豪ラトロブ大学教員との高校生向け授業に係る意見交換を実施

5月1日（水）、STEM（理工数学）教育を通じて日豪を繋ぐ事業に係り来道した、豪ラトロブ大学数理物理学科上級講師のデイビッド・ホクスリー博士と、同大学の社会人学生で地元ビクトリア州の公立高校で教鞭をとるアレックス・ハニーセット氏が本学を訪問されました。初等・中等教育における数学嫌いの生徒の増加傾向と、それに反して現在75%の職がSTEM教育の知識や考え方を必要とすることを踏まえ、豪州では大学教員による公立の学校への教育協力の機会が増えています。文部科学省と豪州教育省による日豪教育ハイレベル政策対話でも、両国で見られるこの共通課題へのSTEM協働教育として、日本のスーパーサイエンスハイスクール事業との連携が検討されてきました。ラトロブ大学は、令和5年度には市立札幌開成中等教育学校、今回は市立札幌旭丘高等学校と

北海道滝川高等学校で訪問授業を行い、来年以降も来道することが計画されています。

今回の本学来訪では、総合博物館、札幌農学校第2農場他関連施設を訪問し、産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部の杉村逸郎部門長、椎名希美副部門長、国際連携推進本部の植村妙菜学術専門職と面会、特に令和5年度からスタートアップ創出本部が行っている小中高校生向けのアントレプレナーシップ教育を踏まえて、日本の高校生向け教育について意見交換がなされました。ホクスリー博士からは、ラトロブ大学で備えるフリーアクセス・リモートラボ（FARLabs）を使った、高校生への核エネルギー、放射線、宇宙と地球環境の授業紹介があり、「FARLabsはオンラインに接続しており、遠隔授業に使える。通常の学校環境では扱えない放射線を、特

定の材質に対して照射し、放射性物質を測定することが可能であり、身近ではない放射線や核エネルギーについて学ぶことができる。豪州では紫外線に無防備にいる人が多く、皮膚がんにより毎年2,000名以上が死亡している。しかし医療においては必要不可欠であり、どこの国のエネルギー問題でも大きな割合を占めるこの分野について、高校生への教育、未来の関心を育てることが重要である」との話がありました。杉村部門長、椎名副部門長からは、本学の高校生向けのアントレプレナーシップ教育における大学生との協働事例が共有され、大学が中等教育に果たす役割を再認識する機会となりました。

*参照：FARLabs公式ウェブサイト
<https://www.farlabs.edu.au/>

（産学・地域協働推進機構、国際連携推進本部）



ホクスリー博士（右から2人目）、ハニーセット氏（右端）と

メルボルン大学との技術職員連携強化

4月22日（月）～24日（水）の3日間、本学の戦略的国際パートナー校であるメルボルン大学の理学部化学・地球環境科学微量解析部門（TrACEES）部門長のアレックス・デュアン博士、国際サポート職員の下田実加氏が、グローバルファシリティセンターを訪問しました。

本訪問は、1月18日（木）に北大技術支援・設備共用コアステーション（CoSMOS）が主催した「第1回北海道大学コアファシリティシンポジウム」に下田氏を講演者として招へいたことに端を発します。

豪州トップの研究大学であるメルボルン大学には、研究実験設備の管理・運営を担うため複数のプラットフォームが組織されています。TrACEESは

理学部のプラットフォームであり、この組織の取りまとめ役であるデュアン博士より、運営、設備管理・運用、人材育成、課題と展望について、お話を伺いました。グローバルファシリティセンターと技術支援本部のメンバーが集まった打ち合わせ及び意見交換では、予算が限られたなかでターゲットとする技術職員人材を獲得し育成する難しさ、利用ニーズの高い機器の共用化と部局側の希望の調整、それに伴う予算繰り、効率的なアフターケアサービスのあり方等々について、国は違っても共通する課題や方向性の共有が行われました。

デュアン博士には本学理学研究院の機械工作室、ガラス工室、薄片技術室、ヘリウムを再利用する極低温度液

化センター、同位体顕微鏡システム等も訪問見学していただき、それぞれ長年研究支援に携わり、実験機器を発明するベテラン技術職員たちの説明をお聞きいただきました。また、理学研究院の化学部門、物理部門の教員との意見交換を行い、学術イベントの可能性も探る機会となりました。

教員と学生双方の活動に密に関わる教育研究支援システムを運営するにあたって、両大学が情報、知識、経験を共有していくことの重要性が示され、今後の連携拡大も期待されます。

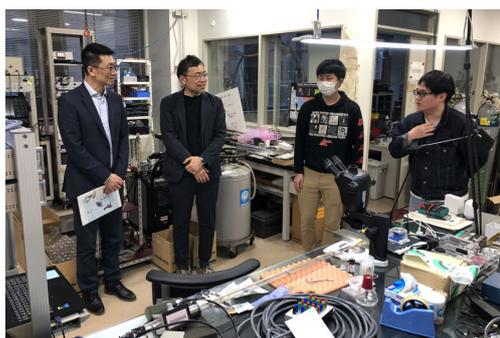
（グローバルファシリティセンター、技術支援本部、理学研究院、国際連携推進本部）



訪問者2名との集合写真
（右から2目がデュアン博士、3目が下田氏）



極低温度液化センター



Jマテリアル実験室



ガラス工室

学生向けシンポジウム「北海道のGXと経済をつなぐ未来とは」を開催

GX・金融コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」とサステナビリティ推進機構は5月10日（金）、共催で学生向けシンポジウム「北海道のGXと経済をつなぐ未来とは」をクラーク会館及びオンラインで開催し、会場・オンライン合わせて507名が参加しました。

シンポジウムでは、町田隆敏札幌市副市長の開会挨拶、瀬戸口剛理事・副学長の挨拶があった後、DNVビジネス・アシユランス・ジャパン株式会社プリンシパルの金留正人氏が、「北海道のGXと経済をつなぐ未来とは」と題して基調講演を行い、今後社会に出ていく学生たちが、あるべき未来（≒ゴール）を見据えて何を「すべき」かを考え、様々なタイプの人々と価値・信念を受け入れ合い、実現に必要な知

識とスキルを身に付けて行動することで、GXと経済をつなぐ未来をつくることになる、との説明がありました。

続いて「GXとスタートアップがつくる北海道の未来」をテーマにパネルディスカッションを行い、NPO法人ezorock代表理事の草野竹史氏、Beyond Next Ventures株式会社投資部門担当の梁 哲治氏、北海道庁経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン推進監の田中 仁氏、金留氏の4名が登壇しました。モデレーターは工学研究院の石井一英教授が務め、会場参加者オンライン視聴者との双方向コミュニケーションができるWebサービスのSlidoを活用するなどして、視聴者参加型で進行了しました。

パネラーからは、使われなくなった

釣り堀で小水力発電する取組の紹介、世界の温室効果ガスの約4分の1が農林水産関連から排出されていることからアグリ・フードテックが注目されていること、及びディープテックが世界を変えうる状況になっていることなどが紹介され、参加者・視聴者からの質問をもとにディスカッションを行いました。

最後に、環境省北海道地方環境事務所の牛場雅己所長が閉会挨拶を行い、本シンポジウムは閉会しました。

サステナビリティ推進機構は、今後もTeam Sapporo-Hokkaidoの活動を通じて、北海道のGXの推進に貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）



シンポジウムの様子



パネルディスカッションの様子



パネリスト（左から）草野氏、梁氏、田中氏、金留氏



モデレーターを務めた石井教授

ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs (ハーツ)」で「グッドドライバー・チェック」を実施

本学ほか4者で進めるウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs (ハーツ)」が実施する「無料で健康チェック！」では、5月19日(日)にNPO法人グッドドライバー・レッスンの協力のもと「グッドドライバー・チェック」を実施しました。

「グッドドライバー・チェック」は、安全に運転するためのセルフチェックやアクセルとブレーキの踏み間違い防止体操及び75歳以上の方が運転免

許更新の際に必要な認知機能検査について実際に体験・学習するイベントです。株式会社宝幸による認知機能の向上に役立つ「さば缶」の食べ方紹介なども併せて行われ、のべ40名が参加しました。

「無料で健康チェック！」は7名の大学生ボランティアに運営サポートをしていただき、「脳年齢測定」「骨健康度測定」「ベジチェック(推定野菜摂取量測定)」などに加えて、「高齢

者についての総合相談窓口」を設けました。また、北海道味の素株式会社と連携し、運動・食事両面から普段の生活の中で簡単に健康を意識できる活動「だけ活」を紹介し、約240名が参加しました。

本プロジェクトは次回8月18日(日)に、「野菜摂取不足の解消(仮)」をテーマに開催予定です。

(サステナビリティ推進機構、保健科学研究院)

【場 所】スーパーアークス北24条店1F及び2F(札幌市北区北24条西9丁目1-1)

【主 催】北海道大学、株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ、札幌市

【協 力】NPO法人グッドドライバー・レッスン、札幌市北区第1地域包括支援センター、北海道味の素株式会社、株式会社宝幸

【対 象】一般市民

【参加費】無料



「無料で健康チェック！」会場の様子



グッドドライバー・チェックの様子

「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！ vol.4」に参加

北海道SDGs推進プラットフォーム（事務局：生活協同組合コープさっぽろ）は「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！ vol.4」を5月15日（水）と18日（土）に道内各地で開催しました。サステナビリティ推進機構はこの取り組みに賛同し、本学学生・教職員へ参加者募集を行ったところ、教職員及びその家族、学生グループなど合計51名が、5月18日（土）に厚田海岸（石狩市厚田区）における清掃活動に参加しました。

「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！」は、毎年1回、幅広い世代の人たちが道内各地の海岸の清掃活動を同時に行うイベントで、今年で4年目を迎

えます。本学からの参加者たちは、札幌キャンパスに集合した後、貸切バスで厚田海岸まで向かい、約1時間、清掃活動を行いました。厚田海岸では330名が参加し、海岸に落ちている一般ごみ、プラスチックごみ、空き缶・びんなどを拾い集め、石狩市のごみ分別ルールに従って仕分けを行いました。

参加者が協力し合い集中して清掃することで、開始する前には驚くほど多くあったごみの大多数を取り除くことができ、45リットルのごみ袋369枚分のごみを集めることができました。

本イベントに参加した学生・教職員からは「海洋ごみ・マイクロプラスチック問題について、直に知ることで

きる貴重な経験だった」「人がたくさん集まって動く、というのが大事だ」「気軽に参加できて、疲れすぎない程度にごみ拾いができて、とても楽しかった」といった感想が寄せられ、今回の活動を通じて、参加者一人一人が海洋ごみ問題を考える機会にもなりました。

サステナビリティ推進機構は、今後も、学内及び地域の方々と連携して、環境改善のための意識改革・行動変容に向けて、様々な活動を行ってまいります。

（サステナビリティ推進機構）



清掃活動を行った厚田海岸



清掃活動の様子



活動参加者



分別して収集したごみ

一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）社員総会・講演会にて、横田理事・副学長が登壇、「SDGsの達成に向けて必要となる大学運営の在り方」について講演

一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）主催の「第3回社員総会・講演会」が5月11日（土）に立命館東京キャンパスにおいて開催され、その中で横田 篤理事・副学長が「SDGsの達成に向けて必要となる大学運営の在り方 ―北海道大学での取り組み事例―」と題して、講演を行いました。

同協議会は、2014年、国内の高等教育機関等において、サステナブルキャンパス構築の取組を推進・加速させ、かつ、諸外国の活動的なネットワークとも連携し、我が国における持続可能な環境配慮型社会の構築にキャンパスをモデルとして貢献することを目的に設立された国内の協議会で、2022年から一般社団法人として活動しています。本学は同法人の法人会員であり、また、横田理事・副学長が当協議

会の副代表理事を務めています。当日の会場には、本学の他、京都大学、名古屋大学、千葉大学、三重大学、立命館大学等、大学教職員や民間企業の方々等、計21名が参加しました。

横田理事・副学長の講演では、札幌農学校の設置から始まる本学における発展の歴史やキャンパスや研究林の成り立ち、教育研究×キャンパス整備（マネジメント）＝SDGsというテーマでキャンパスマスタープラン策定や雨龍研究林・札幌キャンパスの自然共生サイトの認定等のこれまでの活動成果について紹介され、SDGsの達成に向けて必要となる大学運営について、各大学の歴史や特色を生かしたSDGsの達成に貢献するESGマネジメントの実施や、サステナビリティやSDGsの概念を大学全体（経営層、教職員層、学生層）に浸透させることの重要

性について、講演されました。

また、講演会のあと、本学が開発したサステナブルキャンパス評価システム（ASSC）による評価結果に基づき、2022年度評価でゴールド認証された岩手大学から、副学長（ダイバーシティ・環境マネジメント担当）で環境マネジメント推進室長の海妻径子教授より「環境マネジメントに関する取り組みについて」の発表がありました。

これからもサステナビリティ推進機構では、一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）での活動を通じて、サステナブルキャンパス構築に向けて、貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）



横田理事・副学長の講演の様子

■ 部局ニュース

文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催

文学研究院では、5月17日（金）、ハラスメント防止（予防）に係る知見を得るためのFD研修を、本学のハラスメント相談室で実際の業務に当たられている専門相談員で臨床心理士の佐藤直弘氏を講師としてお招きし、Zoomによるオンライン形式で開催しました。

本FDは、副題として「～良好な人間関係と教育研究環境を保つために教員は何に留意すべきか～」とし、①良

好な人間関係と教育研究環境を保つために、②事例を用いたワーク（個人ワーク、グループワーク、全体共有）、③質疑応答の3節で行われました。特に事例を用いたワークでは、講師が用意した仮想事例に基づいたテーマについて、参加者が個々に考えをまとめた後、5～6名のグループに分かれてのディスカッションを行うことにより、主体的・積極的な意見交換がなされた

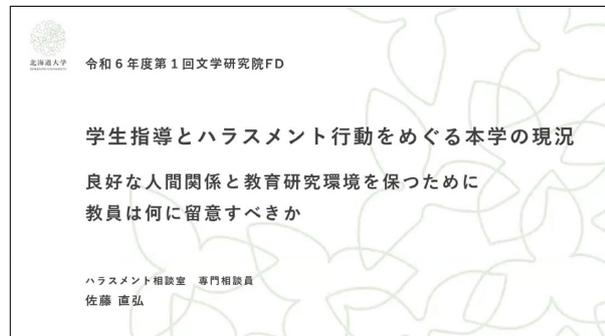
だけでなく、グループの討議をもとにした活発な質疑応答が行われるなど、各教員が日頃の教育・研究指導のあり方について改めて考える機会になったと思われま

す。今回のFDは、研究院内の教員67名がZoomで参加し、大変有意義なものとなりました。

（文学研究院）



講師を務めたハラスメント相談室の佐藤氏



研修はZoomにより資料を映し出して行われた

広域複合災害研究センター第二期オープニングセレモニーを挙行

平成31年4月に設置された広域複合災害研究センター（以下、CNHR）は、防災に関わる全学的な組織として教育研究や人材育成を中心に第一期の活動を進めてきました。令和6年度からは文部科学省プロジェクト研究経費と寄附金のハイブリッドで運営され、社会連携やリカレント教育を強化し、新たな学問分野『広域複合災害減災学』の創出に向けた第二期の活動を開始しました。

この度、第一期の活動報告と第二期の活動方針を発信し、新たな学問分野『広域複合災害減災学』の創出を目指す第二期のあるべき姿の議論を行う第二期オープニングセレモニーを4月25日（木）に学术交流会館で開催しました。セレモニーには行政機関や民間コンサルタントの防災に関わる技術者、大学関係者など北海道内外から約150人

の参加がありました。寶金清博総長の開式挨拶に続き、柿崎恒美北海道開発局長、鈴木直道北海道知事の代理として木村敏康北海道危機管理監から来賓挨拶をいただきました。その後、岡田成幸名誉教授（CNHR客員教授）から、「広域複合災害の本質と建築工学的防災戦略私案～エリア情報からPersonal Digital Transformation (PDX) へ～」と題して特別講演がありました。

セレモニー後半では、CNHR第一期センター長を務めた山田 孝名誉教授から第一期の活動報告、第二期センター長に就任した佐々木貴信教授から第二期の活動方針の説明がありました。パネルディスカッションでは、「新たな防災学を目指して—北海道大学広域複合災害研究センター第二期への期待—」をテーマに、日本放送協会の松本浩司解説主幹をコーディネーターとし

て迎え、北海道立総合研究機構の丸谷知己理事（コメンテーター）、北海道開発局の米津仁司建設部長、北海道総務部危機対策局の平野宏和海溝型地震対策室長、菊谷秀吉前伊達市長、北海道大学病院救命救急センターの方波見謙一助教（CNHR兼務教員）、一般財団法人砂防・地すべり技術センターの南 哲行顧問（以上、パネラー）が活発な議論が交わり、途中、蝦名大也釧路市長にも議論に加わっていただきました。

最後に、CNHR副センター長の厚井高志特任准教授から閉会挨拶として第一期の活動にご協力いただいた関係者及びセレモニー参加者への感謝と第二期の活動に対する意気込みが述べられました。

（広域複合災害研究センター）



第二期の活動について説明する佐々木センター長



活発な議論が交わされたパネルディスカッションの様子

「北大美術部黒百合会 新歓展」を開催

4月16日（火）から23日（火）まで、低年次学生の利用が多い附属図書館（北図書館）において「北大美術部黒百合会 新歓展」が開催されました。

油彩やシルクスクリーン、イラスト等、北大美術部黒百合会の部員による様々な作品22点が北図書館西棟2階及び西棟3階に展示されました。作品は館内を華やかに彩り、学習に励む学生の目を楽しませていました。

今回の新歓展について北大美術部黒百合会は「学部1年生の方を中心に、本展示にたくさんの方に足を運んでいただいたことを大変嬉しく思います。ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。今回の展示では、北大美術部黒百合会で制作しているほぼ全てのジャンルの作品を展示いたしました。この展示をきっかけに、今まで知らなかった作品のジャンルを知る

ことができたというご意見や、美術に興味を持ったという来場者様のご意見をいただいたことが本展示の最大の意義だったと思います。今後も黒百合会では定期的に作品展示を行いますので、部員の力作をぜひご覧ください」と話していました。

（附属図書館）



壁に掲げられた展示作品（9点）



壁に掲げられた展示作品（7点）

■ 表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
6.5.16	駐日中華人民共和国大使館 祝学華 科学技術部公使参事官	今後の交流に関する懇談
6.5.27	長春理工大学（中華人民共和国） 付躍剛 副学長	今後の交流に関する懇談



祝学華 駐日中華人民共和国大使館科学技術部公使参事官（中央）



付躍剛 長春理工大学副学長（中央左）

（国際部国際連携課）

訃報

名誉教授 たが みつひこ 多賀 光彦 氏
(享年94歳)



名誉教授 多賀光彦 先生は令和5年10月7日に逝去されました。

多賀先生は昭和4年、札幌市に生まれ、同28年北海道大学理学部化学科を卒業、神戸大学文理学部化学科の助手を経て、同29年には北海道立衛生研究所に着任しています。昭和37年理学博士（北海道大学）を取得後、同39年北

海道大学理学部化学科助教授、同50年教授に就任されました。昭和54年から55年には文部省在外研究員としてハンガリーのブタペスト工科大学に滞在、平成5年3月に定年退職し、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

多賀先生の専門分野は分析化学であり、原子吸光分析法やイオン選択性電極法など様々な手法を用いて、重金属イオン等の高感度・高選択的な分析法の開発において顕著な業績を残しております。また、これらの分析法を駆使して北海道や本州の多数の温泉水の成分分析を実施し、地球化学的な考察を行っておりました。

先生はまた大学初年度学生の化学教育に尽力され、初学者のための化学の教科書の執筆や化学学生実験の充実に貢献されました。日本化学会の化学教

育委員会や部会、地区化学教育研究協議会の委員・幹事を長く務められ、大学だけでなく北海道の小中高の化学教育の充実と連携に尽力されました。これらの活動に対し、平成4年には日本化学会の化学教育賞を受賞されています。平成5年に北海道大学を退職してからは化学及び環境分野の本の監修・執筆に力を入れられ、全12巻からなる地球環境関連のシリーズの監修や地球化学の教科書の執筆をするなど、多数の本の出版を通して化学だけでなく環境分野の教育・啓蒙にも貢献されました。

多賀先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

資料

在籍学生数（令和6年5月1日現在）

- (注) 1 () 内は女子の内数、〈 〉内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人]	一人	189人	195人	231人	一人	一人	615人 (254<41.3%)	14人	5人	8人	23人	665人 (285<42.9%)
教育学部	50 [10]	—	53	68	64	—	—	185 (81<43.8)	11	2	1	6	205 (95<46.3)
法学部	200 [10] [10]	—	224	222	250	—	—	696 (210<30.2)				3	699 (212<30.3)
経済学部	190	—	200	197	215	—	—	612 (131<21.4)	11			8	631 (140<22.2)
理学部	300	—	325	323	366	—	—	1,014 (235<23.2)		1		5	1,020 (236<23.1)
医学部	280 [5]	—	290	325	266	113	106	1,100 (516<46.9)	1			2	1,103 (516<46.8)
歯学部	53	—	55	55	54	42	51	257 (112<43.6)	1				258 (112<43.4)
薬学部	80	—	89	80	84	30	31	314 (119<37.9)			1		315 (119<37.8)
工学部	720 [10]	—	685	695	800	—	—	2,180 (300<13.8)		2		23	2,205 (306<13.9)
農学部	215	—	215	215	232	—	—	662 (238<36.0)	2	2	1	4	671 (241<35.9)
獣医学部	40	—	42	44	42	42	43	213 (113<53.1)					213 (113<53.1)
水産学部	215	—	236	208	204	—	—	648 (153<23.6)	3		3	3	657 (154<23.4)
現代日本学 プログラム課程	—	—	17	15	19	—	—	51 (33<64.7)					51 (33<64.7)
総合教育部	—	2,691	—	—	—	—	—	2,691 (770<28.6)					2,691 (770<28.6)
合計	2,528 [15] [30]	2,691	2,620	2,642	2,827	227	231	11,238 (3,265<29.1)	43	12	14	77	11,384 (3,332<29.3)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
量子集積エレクトロニクス研究センター	3人	人	人	一人	一人	3人 (1< 33.3)
北極域研究センター	1			—	—	1 (0< 0.0)
低温科学研究所	2			—	—	2 (0< 0.0)
電子科学研究所	3			—	—	3 (1< 33.3)
遺伝子病制御研究所	1			—	—	1 (0< 0.0)
触媒科学研究所	2			—	—	2 (0< 0.0)
スラブ・ユーラシア研究センター	1	1		—	—	2 (1< 50.0)
情報基盤センター	2			—	—	2 (1< 50.0)
総合博物館				—	—	0 (0< 0.0)
北方生物圏フィールド科学センター	5			—	—	5 (3< 60.0)
高等教育推進機構			51	55	9	115 (73< 63.5)
合計	20	1	51	55	9	136 (80< 58.8)

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。
 生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。
 医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

■大学院

研究科名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程				博士課程(博士後期及び博士一貫)					研 究 生	聴 講 生	科 目 等 履 修 生	特 別 研 究 生	特 別 聴 講 生	合 計		
	入学 定員	在籍者数			入学 定員	在籍者数			入学 定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文 学 院	90人	100人	125人	225人 (127(56.4%))	—人	—人	—人	—人	—人	35人	43人	40人	83人	—人	166人 (79(47.6%))	人	3人	人	7人	2人	403人 (214(53.1%))
文学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (1(50.0%))
文学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	—	16 (7(43.8%))						16 (7(43.8%))
法学研究科	20	20	21	41 (17(41.5%))	50	36	14	12	121 (25(20.7%))	15	8	3	12	—	23 (7(30.4%))	8		1	3	9	206 (58(28.2%))
情報科学院	196	194	224	418 (43(10.3%))	—	—	—	—	—	43	49	26	45	—	120 (13(10.8%))				2	4	544 (58(10.7%))
情報科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4					4 (1(25.0%))
情報科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6 (0(0.0%))						6 (0(0.0%))
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						—
水産科学院	114	118	141	259 (62(23.9%))	—	—	—	—	—	19	22	20	24	—	66 (18(27.3%))				10		335 (85(25.4%))
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (1(33.3%))
環境科学院	159	154	161	315 (91(28.9%))	—	—	—	—	—	63	61	43	97	—	201 (78(38.8%))	1			3	1	521 (173(33.2%))
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17					17 (6(35.3%))
理 学 院	127	129	141	270 (42(15.6%))	—	—	—	—	—	55	45	31	68	—	144 (22(15.3%))				3		417 (65(15.6%))
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (2(25.0%))
農 学 院	142	161	164	325 (114(35.1%))	—	—	—	—	—	36	33	40	52	—	125 (45(36.0%))				1		451 (160(35.5%))
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (2(25.0%))
生命科学学院	132	118	119	237 (85(35.9%))	—	—	—	—	—	44	55	49	66	—	196 (60(30.6%))				4	1	438 (147(33.6%))
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 (0(0.0%))
教育 学 院	45	36	52	88 (52(59.1%))	—	—	—	—	—	21	17	17	72	—	106 (61(57.5%))				4	1	199 (115(57.8%))
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (2(66.7%))
国際広報メディア・観 光学 学 院	47	46	54	100 (75(75.0%))	—	—	—	—	—	12	16	14	42	—	72 (42(58.3%))			1		6	179 (123(68.7%))
メディア・コミュニ ケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9					9 (6(66.7%))
保健科学院	40	48	56	104 (55(52.9%))	—	—	—	—	—	10	12	12	24	—	48 (25(52.1%))				1		153 (81(52.9%))
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10					10 (5(50.0%))
工 学 院	326	371	374	745 (100(13.4%))	—	—	—	—	—	69	90	61	94	—	245 (39(15.9%))				4	7	1,001 (143(14.3%))
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23					23 (3(13.0%))
総合化学院	129	153	157	310 (79(25.5%))	—	—	—	—	—	38	40	37	53	—	130 (20(15.4%))				9	1	450 (102(22.7%))
経済 学 院	35	30	43	73 (32(43.8%))	20	15	22	—	37 (8(21.6%))	8	3	11	15	—	29 (12(41.4%))			1		2	142 (54(38.0%))
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (2(66.7%))
経済学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1 (0(0.0%))						1 (0(0.0%))
医 学 院	20	2	22	43 (29(67.4%))	—	—	—	—	—	90	101	98	99	187	485 (119(24.5%))				1		529 (148(28.0%))
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (1(20.0%))
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—	12 (3(25.0%))						12 (3(25.0%))
歯 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	38	32	24	33	127 (57(44.9%))						127 (57(44.9%))
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (0(0.0%))
獣 医 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	10	17	18	9	54 (24(44.4%))						54 (24(44.4%))
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6 (3(50.0%))
医理工学院	12	11	15	26 (5(19.2%))	—	—	—	—	—	5	7	4	5	—	16 (4(25.0%))	2					44 (9(20.5%))
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	19	14	16	12	61 (28(45.9%))	1			7		69 (34(49.3%))
国際食資源学院	15	16	15	31 (16(51.6%))	—	—	—	—	—	6	8	14	10	—	32 (12(37.5%))						63 (28(44.4%))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	32	36	—	68 (27(39.7%))	—	—	—	—	—	—			1	1	1	71 (29(40.8%))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (1(50.0%))
合 計	1,649	1,726	1,884	3,610 (1,024(28.4%))	100	119	95	12	226 (60(26.5%))	643	682	589	948	262	2,481 (775(31.2%))	116	5	4	59	35	6,536 (1,953(29.9%))

(学務部学務企画課)

令和6年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和6年5月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文部	3 (1)	1 (1)				33 (21)	37 (23)
教	1					16 (11)	17 (11)
法	1					3 (2)	4 (2)
経		2 (1)			1	11 (4)	14 (5)
理	10 (3)				23 (9)	4	37 (12)
医					1 (1)		1 (1)
薬					1 (1)		1 (1)
工	9 (1)				12 (2)	19 (5)	40 (8)
農					1 (1)	4 (2)	5 (3)
獣					1 (1)		1 (1)
水					8 (3)	4 (1)	12 (4)
現代日本学プログラム課	7 (4)				41 (27)		48 (31)
総合教育	15 (5)				19 (6)		34 (11)
合計	46 (14)	3 (2)	0	0	108 (51)	94 (46)	251 (113)

大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
法学研究科	1 (1)		3 (1)						19 (10)		11 (3)	18 (8)	52 (23)
水産科学研究科	2		5 (3)				1	6 (2)	27 (7)		14 (4)	4 (3)	59 (19)
環境科学研究科				1 (1)							1		2 (1)
地球環境科学研究科	13 (8)		24 (11)				1	1 (1)	52 (19)		84 (36)	2 (2)	177 (77)
地理学研究所				1								13 (5)	14 (5)
理学研究所	5 (1)		6 (2)				1		24 (6)		25 (9)	2 (1)	63 (19)
農学研究所	12 (8)		21 (13)						17 (6)		34 (19)	1 (1)	85 (47)
生命科学	8 (3)		33 (16)				2		22 (7)		52 (21)	5 (2)	122 (49)
教育学	1								17 (15)		18 (15)	3 (2)	39 (32)
国際広報メディア・観光学	2 (1)		3 (1)						79 (63)		35 (22)	6 (6)	125 (93)
メディア・コミュニケーション研究				2 (1)								7 (5)	9 (6)
保健科学研究科			2 (2)						9 (2)		6 (2)		17 (6)
工学研究科	27 (8)		29 (7)				2	1	72 (13)		96 (23)	10 (4)	237 (55)
総合化学				1								20 (3)	21 (3)
経済学研究所	4 (1)		5 (2)				3 (1)		28 (8)		39 (10)	7 (1)	82 (22)
経									49 (30)	1	19 (10)	2 (2)	75 (43)
医	1 (1)		3 (1)				1		14 (11)		50 (25)		69 (38)
歯												4 (1)	4 (1)
獣											22 (11)		22 (11)
医学研究科			12 (5)								14 (6)		26 (11)
文学研究科	3 (3)		9 (4)						80 (54)		67 (39)	8 (5)	167 (105)
情報科学研究科	3		2						31 (3)		36 (10)	5 (2)	78 (15)
医				1								2 (1)	3 (1)
国際感染症学			2						2 (1)		3 (1)		7 (2)
国際食資源学			18 (11)	1 (1)							20 (9)		39 (21)
国際食資源学	1 (1)		4 (3)				1 (1)		3		16 (5)		25 (10)
公共政策学教育部											13 (7)		1 (1)
公共政策学連携研究部				1								1 (1)	2 (1)
低温科学研究所				1									1
遺伝子病制御研究所				1 (1)								2	3 (1)
触媒科学研究所				1									1
スラブ・ユーラシア研究センター												2	2
情報基盤センター												1 (1)	1 (1)
量子集積エレクトロニクス研究センター												2 (1)	2 (1)
北方生物圏フィールド科学センター												3 (1)	3 (1)
北極域研究センター												4 (2)	4 (2)
高等教育推進機構												1	1
合計	83 (36)	0	181 (82)	14 (5)	0	0	12 (2)	9 (3)	545 (255)	14 (7)	664 (281)	207 (102)	1,729 (773)

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	18 (12)	35 (27)	9 (2)		62 (41)

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
154 (65)	628 (291)	14 (7)	857 (365)	327 (158)	62 (41)	2,042 (927)	48 (22)	2,090 (949)

* () 内は女子を内数で示す

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

(学務部国際交流課)

編集メモ

- 6月7日（金）から9日（日）まで開催された第66回北大祭は、天候にも恵まれ、多くの方々にご来場いただきました。

模擬店グランプリや万人の都ぞ弥生をはじめとした様々な企画が催され、初夏の陽気も相まってキャンパス内は3日間たいへんな活気に包まれました。



裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は南側テニスコートです。

朝から夕方まで、学生たちがテニスに打ち込む姿が見られます。黄色や白のボールが鋭く飛び交う様子が、濃さを増してきた6月の日差しの中でひとときわ目を引きます。学生たちのエネルギー、活気が感じられる瞬間は、本学の日常の一コマです。

キャンパス風景 51 南側テニスコート（北11条西6丁目）



北大時報 ⑥ No.843 令和6年6月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>